

会員の広場



団塊の世代一期生の「優雅」なたわごと

木下幸雄（東京）

毎朝30分、自己流体操を続けている。海外出張中であれ、早朝ゴルフであれ、必ず体をほぐす。ヨガをベースにストレッチ、腹筋などを織り込む。ジムにも週に二、三回通い、エアロビやフィットネスなどで汗を流す。おかげで風邪も引かず、糖尿の合併症もない。団塊の世代一期生、今年65歳、老人の仲間入りだ。つい最近読んだ本は、東洋経済新報社刊の『これだけ

で若返りは可能です』。大事なのは心、気の持ちようなのだが、身体が錆びては気力も萎える。「心身」はよく言ったものだ。

もともと蒲柳の質で、幼少の頃から虚弱で両親は本当に苦労したようだ。その上、川に落ち危うく海に流される直前に漁師に救い上げられ九死に一生を得るとか、やかんをひっくり返し熱湯で大やけど、チャンバラで目を打撲し失明寸前等々。こんなことだから、もの心ついてからも長生きできないのではと漠然とした不安があり、死ぬのが怖くて眠れず、布団に入ってもお祈りをしたものだ。そんな自分が今このように在るのはありがたいことで、家族はじめ多くの人に支えられ、生かされてきた賜物とつくづく思う。

昨年CFOを退任し、監査役に就任。一昔前ならご苦労さん、無事「閑散役」というわけだが、想定外の事件の多発から当今の監査役を取り巻く諸状況は厳しくなるばかり。したが、エネルギーのかなりの部分

は碌を食んでいる会社に尽くすことは必定だ。自身のため、社員のため、株主等のステークホルダーのためとはいえ、数年後には「会社」人間が「社会」人間に替わるのだ。人間とはいくつになってもこれからどう生きるべきか、死をどう迎えるべきかを考える、やっかない生き物であるようだ。

経済倶楽部に入ったのもいくつかの動機がある。知的好奇心を持ち続けること、社会に役立ちたいというモチベーションを維持し、何がしかの示唆が得られることの期待、ネットワークを作り人間関係を豊かにしたい等々。軽々しく政治経済社会について物言うのは憚れるが、世相をみるに情けない限りだ。「民意」とはあれも欲しいこれも欲しいということの総和を総称したものか。軽薄を地で行くTV番組、不寛容な世論、クレーマー社会等々、枚挙にいとまがない。

かつて日本人が持っていた価値観「義」「道」「真善美」「徳」「無常観」「知足」等はどこへいったのか。

グローバル化だ、民意だ、市場経済だ、競争だという現実の世界の対処に追われ、軸となるべき価値観が定まらず、いや失い、流されてしまっている。合成の誤謬おびただしい世の中で、何を換え、何を残すのか、自身も含め皆が問われているのだらう。このような問題意識を持っている方がこの倶楽部には多いと思う。

さて、趣味はと問われれば音楽鑑賞。クラシック中心で、バッハ、モーツァルトなども好きだが、中でもマーラーは大好きだ。特に演奏会での生の「復活」には感涙したことも。人生の喜怒哀楽のすべてがこの人の曲にはある。ほかにヒーリング系、セリーヌ・ディオン、ケルティック・ウーマン、アデル等もよく聴く。自宅で衝動買いした平松礼二画伯の「花ごよみ」を観ながら。休日なら美味しいコーヒーを飲みながら本を読む。至福の時である。五感を働かせることに余念がない日々を送る。「優雅」な人間のたわごとを自己紹介代わりにと一筆取らせていただいた。